



熊本火の国ラウンド

九州体育・保健体育ネットワーク研究会-H30. 11. 23 (金) 熊本県民交流館パレア9F

今年も「九州体育・保健体育ネットワーク研究会熊本火の国ラウンド」を開催することができました。昨年に引き続き11月23日勤労感謝の日でしたが、佐藤先生、高橋先生を始め、県外11名、県内21名、合計32名で校種や立場を超えての研究会でした！

1 話題提供：「新学習指導要領における体育科・保健体育科のポイント」

国立教育政策研究所教育課程調査官 高橋修一先生より、改訂された新学習指導要領について解説していただきました。「改定の方
向性、育成を目指す資質・能力の三つの柱」を丁寧に説明され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を具体例を交えて分かりやすく話していただきました。あくまでも「主体的・対話的で深い学び」の【視点】で授業改善を図ることが重要であることを強調されたように思います。また「指導と評価の計画、カリキュラム・マネジメント、保健体育の見方・考え方、知識を基盤とした学習の充実」等々も話され、頻繁に耳にしている言葉についての理解が進みました。最後に、体育の授業で目指すことを車の4輪に例えられました。「①運動が好き
な子供を増やす②運動嫌いをつくらない③運動が得意な子供を増やす④苦手な子供を放置しない」は、体育に関わる者として肝に銘じておくことだと深く感じました。



2 ワークショップ：「2018熊本ラウンド知識構造化」

桐蔭横浜大学 佐藤 豊先生より、知識の構造化について説明していただきました。「概念的知識・方法的知識・具体的知識」の意味や概念的知識の特定が何に役立つのか等を身振り手振りで話され、とても分かりやすいものでした。バスケットボールを例にされ、「何のため」というコアコンセプトの考え方も示されたように思います。そして、主活動である「知識構造化ワークショップ」は、5つのグループで取り組みました。各グループの種目は、「水泳・バスケットボール・ハードル走・ソフトボール・ゲームゴール型サッカー」。これまで知識構造化ワークショップ経験された先生方を中心に、佐藤先生や高橋先生にも適宜入ってもらい、解説を片手に脳をフル回転させながら協働的に頑張りました。本当にお疲れ様でした。概ね完成された後、グループを回って意見交流、全体交流につなげました。「指導者が概念的知識を明確に持てれば、一貫してぶれない指導や関わりができるのではないか。」「常に何のために、ということをしっかり考えて授業を作ったり、業務を進めたい。」「ワークショップを重ねながらもっとシンプルに改善を図りたい。」等の意見が出されました。



最後に、佐藤先生から「大きな概念だがどこにフォーカスすればいいのか、学習指導要領本体（様相）と解説のこと、学校全体で俯瞰すること、評価の推進」などでまとめられました。また、高橋先生からも「構造的に作られている学習指導要領」であることを告げていただき、会を終了しました。



3 おわりに

今回の熊本火の国ラウンドには、小中・大学・教育委員会の先生方、そして大学生に参加していただき、多くの学びを共有したことで、さらに体育を盛り上げていこうというエネルギーになったのではないかと感じています。（来年は高校の参加を期待したいですね！）

また、前日に行った情報交換会には、27名の方々に参加していただきました。県内外、そして校種や立場を超えて多くのつながりが生まれ、火の国らしく熱く熱く体育について語り合ってもらいました。

最後になりましたが、大変お忙しい中、運営や準備等にご協力いただいた先生方を始め、参加して下さった全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【文責：熊本県事務局 北本】

